

地域機構の役割と発展

～EUの拡大と経済格差～

富山県公立中学校教諭

はじめに

EU = 欧州連合は現在加盟国が27にまで増え、ヨーロッパに国家の枠を超えた巨大なまとまりがつくられつつある。このように、世界では地域機構を組織し、地域の結びつきを強め、世界での競争力を高めようとする動きがみられる。

授業の流れ

地図帳p.37①のAとBの資料を対比させながら、EUへの加盟順と1人あたりの国内総生産額の関係に着目させる。

- ① 1967年(発足時)の加盟国
- ② 1995年までの加盟国
- ③ 2004年からの加盟国

この3段階でEUの拡大を見ていくと、1995年までは、比較的に経済が発展している国々での地域機構であることがわかる。しかし、2004年からは、経済的に立ち遅れていたヨーロッパ東部の国々の加盟を認めたことがわかる。

次に、EUが東欧諸国を加盟させるメリット・デメリット、東欧諸国がEUに加盟するメリット・デメリットを次のような表を使って考えさせる。

	加盟させる(する)メリット	加盟させる(する)ことのデメリット
EU	市場が拡大される。安い労働力を有効に活用することができる。	EU内の経済格差が広がり、補助金制度などの充実を図らなければならない。
東欧諸国	EUからたくさんの資金が入り、国内経済が活発になる。	国内の労働者が賃金の高い国へ出稼ぎに出て、国内産業が発展しない。

なお、メリット・デメリットを考えさせる際、

①人や物の自由な移動→国境のフリーパス

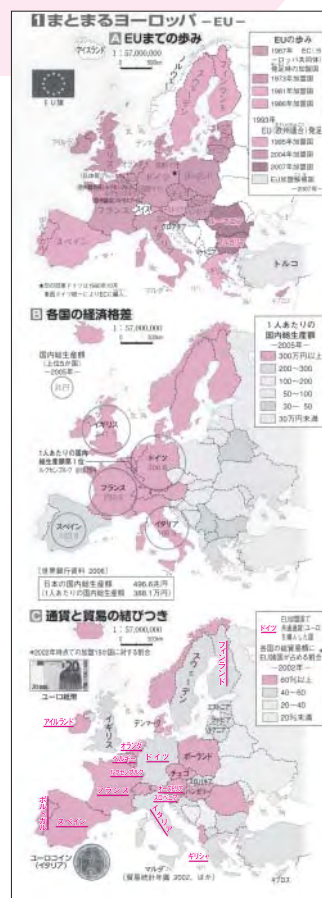
②経済統合→通貨統合

というEU統合の大きな二つの目標に着目させる。

2008年3月より、東欧の加盟国に対しても国境

のフリーパスが認められ、いよいよ西側の多額の資本が東欧に流れ込み、東欧の安い労働力が西側に流れ込むことになった。

とくに、ポーランドは東欧諸国の中でも人口も多く国土面積も広い。新しい市場としても注目されている。さらに、ポーランドは地動説のコペルニクスや2度のノーベル賞を受賞したマリー・キュリーを輩出した国でもあり、教



「中学校社会科地図 初訂版」p.37
育水準は高く、安くて質の高い労働市場も大きな魅力となっている。

おわりに

EUはそもそもヨーロッパを一つのまとまった地域にしようとするものである。そのために、政治や経済を統一して大きな連邦国家のような体制づくりをしている。欧州憲法を設けようとしているのもそのためである。

その一方で、EU内には格差が大きすぎるということで、Cの資料からもわかるとおり、共通通貨ユーロの導入が遅れたり、フランスやオランダでは欧州憲法の批准が国会で否決されたりしている。EUが経済的にも政治的にも一つにまとまるには、まだ時間がかかりそうだ。